

第28回

金春康之演能会

六条河原院の
もの侘びた
塩金の景は荒れ果て
そこに立ち帰った
貴公子の亡霊は
恋しや恋しやと
失われた風雅の幻を追う・・・
その美しさを描いて
侘びの美を求めた
世阿弥の名作《融》

能
融 とおる
クロッギ

狂言
柑子

金春康之ほか

善竹彌五郎 上西良介

仕舞 氷室

本田芳樹

仕舞 田村キリ

佐藤俊之

仕舞 杜若キリ

金春安明

仕舞 籠太鼓

櫻間金記

仕舞 車僧

金春穂高

奈良春日野国際フォーラム 薨

主催 金春康之後援会・桃心会

後援 奈良県

関西三元文化圏参加事業

二〇二二年三月二〇日(日)

午後二時～五時

●全席指定Ⅱ正面 五五〇〇円 脇正面 四五〇〇円

中正面 三五〇〇円 学生 二五〇〇円

●入場券発売Ⅱ二〇二二年一月二十一日(金)から

●お問い合わせⅡ金春康之後援会事務局(10時～17時)

TEL/FAX 〇七四三二五六一三二六九

能《融》について

今日、《融》として演じられる能は、後の場面に鬼が現れる観阿弥作《融の大臣の能》を世阿弥が改作したものと推定もされていますが、改作であっても、そこには世阿弥の構想が明確に示されています。

それは、侘びの美の世界を生み出そうとしていることです。田子を担いで潮汲みの老人として現れる融（嵯峨天皇の皇子、八九五年七十四歳歿）の亡霊の風情は質素で侘びたものですし、かつての風雅な庭の荒廃を嘆く姿も侘しいものです。また、京の名所を教えるところは、すべて秋の夕暮れの寂しさを伴っています。のちに、優雅な貴公子の姿で現れて、昔を恋しく思いつつ舞う舞は、上品で優雅なものにちがいありませんが、荒廢した月下の庭に、かつての幻を求めてひとり舞う亡霊の姿を思えば、まことに寂しく侘しいものでしょう。

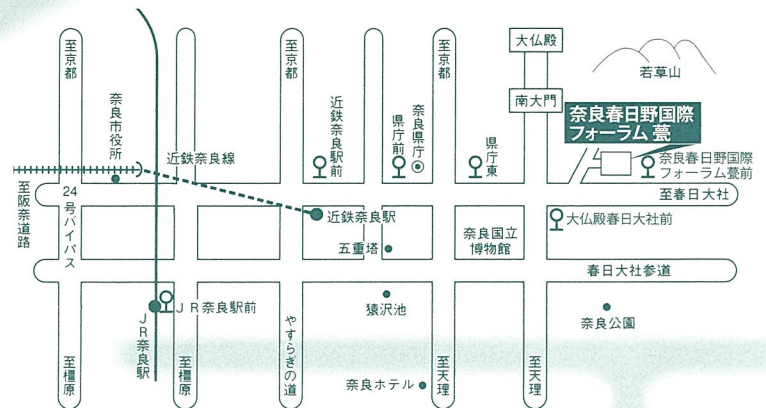
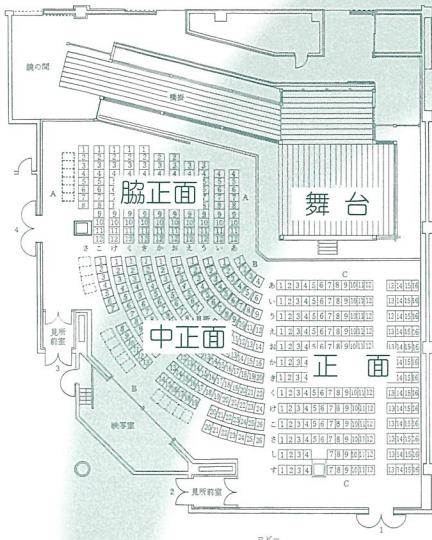
人生のはかなさへの思いを秘めた日本独自の侘びという美意識が、花としての優美な王朝美を含みつつ、ここに現れているように思われます。それは、陸奥の塩釜の景を移し、塩を焼く風情を楽しんだという融の侘び好みに世阿弥が感応したからこそ、鬼の出る能からは想像もできない美の世界が生み出されたということかもしれません。

（金春康之）

金春康之プロフィール

一九五〇年広島生まれ。シテ方金春流第七十九世宗家金春信高師のすすめで奈良に転居し、七歳で金春欣三師に師事。京都大学、大学院を通じてハイデッガーの哲学のなかにある芸術思想を研究し、奈良県立美術館の学芸員を勤めていたが、一九九九年に退職し、能に専念。二〇〇一年、重要無形文化財能楽総合保持者に認定。

能楽ホール 座席図



- *本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインにしたがって行います。
- *ウイルスの感染状況によって入場者数の制限等をお願いする場合があります。
- *マスクの常時着用、検温、手指のアルコール消毒にご協力をお願いします。
- *会場の換気は十分に行われていることを施設に確認しています。
- *当日の演目、出演者に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。